

木津防犯推進委員協議会 精華台支部（京都府）

皆さん、こんにちは。京都府から参りました木津防犯推進委員協議会 精華台支部の宮本治郎、そして福田孝司です。どうぞよろしくお願いいたします。

この目次の順にご紹介します。目的、支部の紹介、活動状況、問題点と課題、課題解決への取組、そしてまとめという順序でご紹介いたします。



2023年7月1日

安心・安全な精華台を住民みなと共に

京都府 木津防犯推進委員協議会
精華台支部

宮本治郎 福田孝司

目次

- 1 目的
- 2 支部の紹介
- 3 活動状況
- 4 問題点と課題
- 5 課題解決への取組
- 6 まとめ

1 目的

安心・安全な精華台 を 住民みなと共に
(目指す状態) (目指す活動)

2 支部の紹介①

立地と環境(1)

- ・京都府の最南部
- ・京都、奈良、大阪にまたがる
けいはんな学研都市
の中心、精華町



まず、私たちの目的です。私たちの目指す状態は、「安心・安全な精華台」。目指す活動は、「住民みなと共に」。このような目的で活動を進めております。

次に、支部の紹介です。私たち精華台がある精華町は、京都府の最南端にあります。京都、奈良、大阪にまたがる、けいはんな学研都市の中心である精華町。その精華町に、我々の精華台があります。

2 支部の紹介②

立地と環境(2)

- ・精華台は、区画整理された住宅地を中心にマンションや店舗が点在
2400世帯
6800人



2 支部の紹介③

精華台支部の成り立ち

- ・2004年創立
精華台地区、5つの自治会会長会議で創立決定
- ・防犯推進委員 計11名
地元住民 9名
店舗店長 2名
セブンイレブン
ファミリーマート



精華台地区には、区画整理された住宅地を中心に、マンションや店舗が点在しております。およそ 2400 世帯、6800 人が住んでおります。

精華台支部の成り立ちです。2004 年に創立されました。精華台地区には当時、5 つの自治会があり、その会長会議で創立が決定されました。現在は、防犯推進委員として、私たち地元住民が 9 名と、店舗の店長 2 名の計 11 名がおります。

精華台支部の、3 つの特長をご紹介します。

まず 1 つ目は、地元自治会の会長会議での話し合いで創立されたということです。

2 つ目は、それを受けて創立以来、自治会と合同で活動を継続してきたということです。

そして 3 つ目に、同じくこれを受けて、各自治会から毎年、活動助成金を受けています。1 世帯あたり年間 100 円という額をもらい、活動費に当てております。

2 支部の紹介④

精華台支部 3 つの特長

- ・地元自治会の会長会議の話合いで創立された
- ・創立以来、自治会と合同で活動を継続
- ・自治会から毎年活動助成金を受けている
(世帯当たり年間100円)

3 活動状況①

- ・小学校の登下校見守り
登校見守り 通年実施
下校見守り昼パト 月2回
- ・夜パト 月2回
自治会合同の徒歩パト
委員単独の青色車パト
- ・青色車自主パト 偶数月初日



活動状況です。

小学校の登下校見守りを行っています。

朝の登校見守りは、通年、実施しております。

下校見守りの昼パトについては、月 2 回を基本にしています。小学校の短縮授業に合わせて下校時の横断歩道の見守り、また青色パトロールさんによる全域パトロールをしています。

夜パトも月に 2 回、実施しています。これは、自治会との合同の徒歩パトロールと、委員単独での青色車によるパトロールとがあります。

また、京都府が一斉に、偶数月の平日初日に行う青色自主パトロールにも、参加しております。

それ以外にも、街路灯や安全灯の点灯確認パトロールを、毎週行っております。夜になって、暗くならないと分からないのですが、街路灯や安全灯を確認し、消えているところがあれば、精華町役場の関係機関などに連絡します。修理されたことも確認して情報共有しています。

年末特別警戒パトロールでは、木津警察署、光台交番、精華町役場、そして地元の自治会が参加します。集合場所で挨拶や情報交換をした後に、全域をパトロールしております。

次に、犯罪の発生状況と表彰の受賞歴です。特殊詐欺被害は幸いなことに、精華台地区では 1 件も発生しておりません。刑法犯認知件数は 12 件

3 活動状況②

- ・街路灯、安全灯の点灯確認パトロール(毎週)
- ・年末特別警戒パトロール
木津警察署
光台交番
精華町役場
が集合して精華台
全域をパトロール



3 活動状況③

犯罪発生状況、表彰受賞歴

特殊詐欺被害 精華台地区 0件(2022年)
刑法犯認知件数 12件(光台交番管内2023年1-3月)

表彰 受賞歴

表彰	受賞年月	表彰内容
1	2008年5月	木津防犯協会会長表彰
2	2009年10月	京都府警察本部 防犯推進部 防犯推進協会 会長表彰
3	2017年10月	木津防犯協会会長、木津警察署長表彰
4	2018年5月	防犯推進協会 防犯推進協会 防犯推進協会 会長表彰
5	2021年7月	防犯推進協会 防犯推進協会 防犯推進協会 会長表彰
6	2021年10月	京都府警察本部 防犯推進部 防犯推進協会 会長表彰 (防犯推進協会)
7	2022年7月	防犯推進協会 防犯推進協会 防犯推進協会 会長表彰



ありましたが、これは精華台地区だけではなく、光台交番管内の、精華台以外の地区も含めた今年1月から3月までの数値です。

下の表は表彰の受賞歴です。ここにありますように7回の受賞をしております。この表彰の受賞歴については、我々だけではなく、地元の自治会と共同で活動を行ってきた結果だと思っています。ですから自治会に対して、精華台に対していただいたものだと考えています。

また、「特殊詐欺被害がない」、「刑法犯認知件数が少ない」というのは、本当に我々の活動の成果なのかどうか、これは常に反省しながら、今後も活動を続けていきたいと思っております。

4 問題点と課題①
委員の高齢化・新規委員の参加減少

支部メンバーの陣容

- ・高齢化と人員の減少
18名のメンバーが
過去5年で半減
(男性:9名 女性:2名)
- ・店舗の店長が仲間に
2021年12月、店長
に呼びかけ入会

1	支部長	男性	後期高齢者
2	副支部長	女性	前期 #
3	#	宮本治郎	前期 #
4	会計	福田孝司	現役勤労者
5		男性	後期高齢者
6		男性	#
7		男性	#
8		男性	#
9		女性	#
10		セブンイレブン店長	
11		ファミリーマート店長	

次に、問題点と課題の、まず1番目です。委員の高齢化と新規委員の参加減少。

この右の表が現在の防犯推進委員のリストです。支部のメンバーは、一時は18名いました。しかし、高齢化と人員の減少によって、過去5年間で半減してしまいました。そうしたこともあり、店舗の店長2名に参加してもらいました。これに

ついては、後ほどご紹介いたします。

問題点と課題の2番目です。コロナ感染症の蔓延による活動の制限。支部創設以来の自治会合同のパトロールと会議が、コロナ禍により2年半の間、中止に追い込まれました。その結果、防犯推進委員だけの昼パト、それから青色防犯パトロール車による単独パトを継続するしかない日々が続いてしまいました。

4 問題点と課題②
コロナ感染症の蔓延による活動の制限

支部創設以来の自治会合同パトロールと会合が
コロナ禍により2年半のあいだ中止に追い込まれた

➡ 防犯推進委員だけの昼パト、青色防犯パト車
による単独パトを継続するしかない日々が続いた

4 問題点と課題③
最大の問題は、
精華台支部と自治会の交流が激減したこと

支部委員だけの活動が続いた結果、自治会内で
防犯活動の必要性(意識)や手順などの引継ぎが
なくなりました

各自治会の会長、副会長、班長は全員が年度ごと
に輪番や抽選で入れ替わることも要因

4 問題点と課題④
精華台支部としての反省点

支部創設以来、自治会に参加を呼びかけ
一緒に活動してきたが、防犯活動実施の中心
になってしまっていた。

↓

周辺地区を含めた自主防犯活動の橋渡しの役目を
いかに担うかが今後の課題である。

最大の問題点は何かと考えますと、我々精華台支部と自治会との交流が激減したことだと思います。我々支部委員だけの活動が続いた結果、自治会の中で、防犯活動の意識や必要性、あるいは具体的なパトロールの手順などの引き継ぎがなくなりました。また、もう1つ、各自治会の会長や副会長、班長は、全員が年度ごとに、輪番や抽選で入れ替わります。これも要因の1つだろうと考えています。

精華台支部としての反省点です。支部創設以来、自治会に参加を呼びかけ、一緒に活動してきました。そのような中、我々精華台支部の防犯推進委員が、防犯活動を実際に行う中心になっ

てしまったことが反省点です。したがって、今後は、周辺地区を含めた自主防犯活動の橋渡しの役目をいかに担っていくか。それが今後の課題であると考えています。

5 課題解決に向けた取組方策

橋渡しするにあたり

- ・精華台を取り巻く人々・組織には、どのようなものが存在するか
- ・どうすれば地域全体の防犯活動へのモチベーションを高め、質の向上に結び付けるか

➔ 新たな広がり・繋がりを目指す活動を
（「地縁」の再構築）

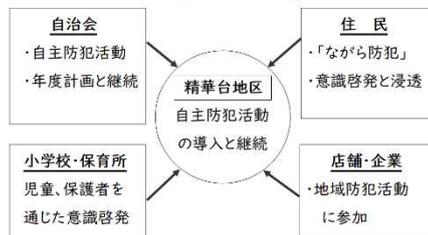
この橋渡しをするにあたって精華台を取り巻く人々、あるいは組織、グループはどのようなものが存在するのか、どうすれば精華台地域全体の防犯活動へのモチベーションを高めて、質の向上に結びつけることができるのか。こうしたことを考え、今後は新たな広がり、つながりを目指す活動を続けていきたいと考えています。別の言葉で

言いますと、「地縁の再構築」となるだろうと考えています。

これが基本となる方針です。中央に「精華台地区、自主防犯活動の導入と継続」と書いてあります。そして、これに向かって4つの矢印があります。左上が自治会、右上が住民、左下が小学校・保育所、右下が店舗・企業となっています。核となるグループ、塊がゆるやかに融合して、ゆるやかにつながって、トータルとしてこの精華台地区の自主防犯活動が、うまくできるのではないかと考えております。これを基本方針に据えています。

5 課題解決に向けた取組方策

基本となる方針



次に、課題解決に向けた取組方策のうち、自治会や住民に対するものの1番目です。

まずは、従来、行っていた合同パトロールを再開します。今、再開しつつあります。

2番目が、必要な情報を必要な方法で届けることです。1つは、防犯ニュースの毎月発行。もう1つはホームページやInstagramアカウントの開設です。

防犯ニュースとは、紙媒体での情報提供です。ホームページやInstagramアカウントというのは、デジタル媒体での情報提供です。

右側にある黄色の物が、私どもが発行している防犯ニュースです。コロナ前は年に4回発行していましたが、コロナ禍になってからは、これはいけないということで、毎月発行しています。ネットで安い印刷業者を探して、カラーの両面印刷で作っています。毎月、これを自治会に配布して、回覧してもらっています。

そして、最後が「ながら防犯」活動の導入です。こちらについては、後ほどご説明いたします。

5 課題解決に向けた取組方策

①「自治会」・「住民」(1)

- 合同パトロールの再開
- 必要な情報を必要な方法で届ける
 - ・ 防犯ニュースの毎月発行
 - ・ HP、Instagramアカウントの開設
- 「ながら防犯」活動の導入



課題解決に向けた取組方策のうち、自治会や住民に対するものの2番目です。精華台支部のホームページの認知度を上げ、防犯カレンダーを含めた利用を広げます。ホームページは、支部活動や、発信した情報をためておくツールとして開設いたしました。ホームページには、カレンダーが含まれており、これで我々の活動予定を共有することで、住民の皆さんの参加を促していくようにしております。

また、インスタグラムの認知度を上げます。こちらは活動の報告や、あるいは防犯の状況を即時に共有することを目的として開設いたしました。この中には木津警察署が発行している「地域安全ニュース」や、光台交番が発行している防犯広報誌「がっけん」も、タイムリーに投稿しています。ここでの課題は、認知度をいかに上げるか、フォロワー数をどれだけ増加させるかということだと考えています。

5 課題解決に向けた取組方策

①「自治会」・「住民」(2)

- 精華台支部ホームページの認知度を上げ、防犯カレンダーを含めた利用を広げる



5 課題解決に向けた取組方策

①「自治会」・「住民」(3)

- インスタグラムの認知度を上げ、若い世代の利用を広げる



5 課題解決に向けた取組方策

①「自治会」・「住民」(4)-1

- 「ながら防犯」活動の導入
 - ・活動時に気軽に身につけてもらうため、精華町の公式キャラクター「京町セイカ」ちゃんの使用認可を取得し、防犯グッズを作成して自治会、住民へ配布
 - ・学生ボランティア「ロックモンキーズ」にデザイン依頼した「わんわんパトロール」用バッグを作成

5 課題解決に向けた取組方策

①「自治会」・「住民」(4)-2

- 「ながら防犯」活動の導入



次に、「ながら防犯」活動の導入です。「ながら防犯」は以前から推奨しているのですが、実際の活動時に気軽に身につけてもらうために、防犯グッズを作成しました。このイラストは、精華町の公式広報キャラクターである京町セイカちゃんです。そのイラストの使用認可を取得し、防犯グッズを作成して、自治会あるいは住民へ配布しました。それ以外にも、学生ボランティア「ロックモンキーズ」の女子学生にデザインを依頼して「わんわんパトロール」用バッグを作成し、配布しています。「ロックモンキーズ」については、また、後ほどご紹介します。

左下の写真が、京町セイカちゃんのイラストのついた防犯のぼりです。小学校や保育所の周辺に、固定して立てています。その隣が、京町セイカちゃんのイラストのついた防犯ベストです。私も今、着ています。そして、右下が、同じくイラストのついた防犯マスク。そして、右上が、「ロックモンキーズ」の女子学生に作っていただいた「わんわんパトロール」用のバッグです。このようなグッズを活用しています。

次に、小学校、保育所です。この地域の中に、1つの核として存在する精華台小学校、せいかだい保育所があります。この防犯イベントに、定期的に参加しています。また、それ以外にも適宜、必要に応じて、情報交換をしています。

左の写真は、せいかだい保育所での「防犯のつどい」のときの写真です。園児を集めて簡単な防犯の話をし、その後、不審者が侵入したという想定で、刺股を使った取り押さえ訓練をします。保育園では、こうした「防犯のつどい」を毎年やっております、それに私どもも参加させていただいています。

右の写真は、精華台小学校の2年生生活科の授業です。今年は2年生の児童と一緒に、小学校の中を、くまなく一緒に歩いて回りました。児童には『ここは怪しいな』とか、『ここは危険だな』と思うところがあったら覚えておいてね』と頼んで、教室に帰ってからそれを発表してもらいました。そこでの私たちとのやり取り、あるいはちょっとしたアドバイスなど、そうした情報交換をして、防犯意識の醸成を行っております。

次に、店舗と企業です。精華台地区の住民がよく利用する地元店舗の店長に声をかけて、防犯推進員に推薦して、入会してもらいました。地元住民のメンバーが少なくなっていることと、また、それ以外にも広がりを増やそうということから、このようにいたしました。

もちろん、店長さんは仕事が一番ですから、パトロールや会合への参加までは、お願いしていません。店頭へのポスターの掲示、店の中の見守り場の活用、あるいは高齢者がマネーカードを購入しに来たら止めてもらうなど、こうした、相互に協力できる関係を、今、構築しております。

5 課題解決に向けた取組方策

②「小学校、保育所」

精華台小学校、せいかだい保育所の防犯イベントに定期的に参加する



生活科授業(精華台小学校)



5 課題解決に向けた取組方策

③「店舗・企業」

精華台地区の住民がよく利用する地元店舗の店長に声をかけ、防犯推進員に推薦、入会してもらった

店頭ポスター掲示、高齢者のマネーカード購入抑止など相互に協力できる関係



5 課題解決に向けた取組方策 さらなる課題と解決に向けて(1)

・ロックモンキーズ
(京都府警 学生防犯ボランティア)
のメンバーとの協働活動を増やす



夜間パトロール時に2名がランパト参加
防犯推進委員が自転車と並走
(オレンジのベストがロックモンキーズ学生)

さらなる課題と解決に向けて新たな広がりを目指す、その1例目です。

京都府警傘下の学生ボランティアグループに、「ロックモンキーズ」という組織があります。このメンバーとの協働活動を増やしています。

右の写真は、我々の夜間パトロールに、2名がランパトに参加してくれたときのものです。オレンジ色のベストが、「ロックモンキーズ」の男子学生です。我々のルートに沿って、ランパトをしてくれました。我々はほとんどが高齢者なので一緒に走るのが少々難しく、自転車で併走しました。

我々のルートに沿って、ランパトをしてくれました。我々はほとんどが高齢者なので一緒に走るのが少々難しく、自転車で併走しました。

さらなる課題と解決に向けて、新たな広がりを目指す2例目です。イベント開催を通じて、子どもたちを中心に、住民の防犯意識を高めます。

これは、これからの計画なのですが、先ほどご紹介した「ロックモンキーズ」の学生に来てもらい、寸劇や紙芝居をしてもらうことを考えています。また、「いかのおすし」という、京都府警で作った非常にノリのよい、アップテンポの曲があります。それに合わせて、ダンスが得意な女子学生に踊ってもらったり、我々もバルーンアートを作って子どもたちに提供したり、そうしたことを計画しています。子どもたちに喜んでもらいながら、保護者も一緒に、防犯意識を醸成していきたいと考えています。

また、昨今、特殊詐欺が急増しております。私どももいろいろ活動しておりますが、やはり、直接聞いていただいた方がよいということで、自治会ごとに防犯講習会を開催しています。これには木津警察署の生活安全課から専門のおまわりさんに来ていただいて、説明をしていただいています。

新たな広がり・つながりを目指す3例目です。近隣の防犯推進委員協議会の支部と交流して、情報交換をします。

もともと、光台交番の管轄内に、精華台という地区があります。そこには光台交番連絡協議会があり、隣接する光台支部、木津川台支部、他の区長さんが集まって情報交換をする場があります。

これを活用して、2021年10月に我々が声をかけて主催して、隣接支部との本音の意見交換会を行いました。それ以外にも、具体的なパトロールの方法も話しました。また、青色パトロールで、スピーカーで音声を流すとき、どのようなスピーカーがよいのか、アンプはどこで、どのくらいの値段で買えるのか、どこが安いのかといった情報交換もしております。

また、我々の近隣に、少し離れたところですが、新たな住宅の開発地区ができております。そうしたところでの防犯・防災イベントに参加して、情報交換をしております。

5 課題解決に向けた取組方策

さらなる課題と解決に向けて(2)

・イベント開催を通じ、子どもたちを中心に住民の防犯意識を高める(ロックモンキーズ学生の寸劇やダンスを活用)

・特殊詐欺の急増に備え自治会ごとに防犯講習会を開催



5 課題解決に向けた取組方策

さらなる課題と解決に向けて(3)

新たな広がり・繋がりを目指す

近隣の防犯推進委員協議会の支部と交流し情報交換する

★ 光台交番連絡協議会を活用し交流を深める
隣接の光台支部、木津川台支部、他の区長

★ 青色パトロール意見交換会の主催(2021年10月)
隣接支部との意見交換、またパトロールの方法、機器、防犯グッズなどの情報交換

★ 近隣新開発地区の防犯防災イベントに参加し情報交換

6 まとめ

- 地域に根差した活動は道半ば
- コロナ禍で変化した環境をチャンスと捉え新たな取組を増やす
- 住民を防犯活動に惹きつける方法を探し続ける

最後のまとめになります。

今、ご説明したように、地域に根ざした活動は、まだまだ道半ばです。ただ、やはり、地道な活動を地道に続けていくことが、一番の基本になると思っています。これからも続けたいと思います。

それから、コロナ禍で変化した環境をチャンスと捉えて、新たな取組を増やしていきたいと思っています。

最後に、住民を防犯活動に惹きつける方法を探し続けること。特に若い世代、学生も含めた若い世代に、どのようにしてこちらに向いてもらうか、防犯活動に参加してもらうか。これを、さらに探し続けていきたいと考えています。

以上で、木津防犯推進委員協議会 精華台支部の説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

2023年7月1日

終わり

ありがとうございました。

京都府 木津防犯推進委員協議会
精華台支部
宮本治郎 福田孝司

パトランSEMBOKU（大阪府）

皆さま、よろしくお祈いします。今日も朝から子どものお弁当を作り、子どもを学童に送り出すという普通の主婦が、このような場に立ってお話をしておりますので、大変緊張しております。どうか、あたたかくご反応いただきながら聞いていただけると励みになります。ご協力をお願いしたいと思ひます。



早速ですが、私たちパトラン SEMBOKU の活動について、ご紹介させていただきます。

私たちは大阪府堺市南区にある泉北ニュータウンで主に活動しております。そのため、泉北ニュータウンで活動するメンバーが多いのですが、私たちの活動理念に賛同いただいた方々によって構成されておりますので、大阪府堺市はもちろん、大

阪市や和泉市、東大阪市、泉佐野市、その他、沖縄県でもメンバーがそれぞれ活動しております。

私たちは、街の防犯の目を増やすことで犯罪抑止が期待されるランニングパトロールの活動を普及させて、犯罪の起こりにくい街にしたいと考えています。

それでは、メンバーが賛同した、私たちの活動理念についてお話しします。

ランニングだけではなく、ウォーキングや犬のお散歩、買い物のついでなどの日常生活の中での活動をお願いしています。高齢者や子どもの見守り、住人同士のつながりを深めるなど、地域の防犯を目的とし、ランニングやウォーキングが趣味

の方はもちろんですが、定年退職された高齢者の方、そして身体的、精神的にリスクのある方でも一緒に行っていただける活動だと思っています。そうした方たちに、社会的役割を担っていただくきっかけとなる場にしたいと考えています。走れなくてもよいのです。一人一人の存在が、地域にとって必要不可欠となるまちづくりを理念としています。

なぜ、私たちが防犯活動に、一人一人の存在を尊重するのか。それは、この後の私たちの紹介を聞いていただけるとご理解いただけると思ひます。



目次

- 01 ランニングパトロール活動を始めたきっかけ
- 02 活動のビジョン実現に向けた取り組み
- 03 バトランSEMBOKUのその他の取り組み
- 04 バトランSEMBOKUの活動状況
- 05 広報活動と啓発への取り組み
- 06 活動を通して地域への貢献
- 07 現状の課題と今後の活動目標

Table of Contents

01 ランニングパトロール活動を始めたきっかけ

私が住む堺市が大阪で
住みたくない街No.1で！



TRIGGER

では、活動を始めたきっかけや、私たちの取組、活動状況、実績、今後の目標などを、こちらの内容に沿ってご案内していきます。

まず、活動を始めたきっかけについてです。それは、こちらにあるように、私が住む堺市が大阪で「住みたくない街No.1」だったということです。

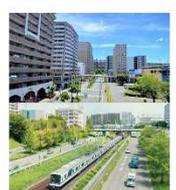
01 ランニングパトロール活動を始めたきっかけ

わが街、泉北がまさかの評価

あるニュース記事で、現在、私や家族が住む堺市が大阪で住みたくない街ランニングの第一回に紹介されていた事実に一つが現実の事だ。

思いもよらぬ記事の内容にショックを受けた。そんなこんな感じたことを知った時は私たちが住むそんな街で暮らしを続けていくのかと、もどかしい思いが募る。

子供たちの未来のために今私ができる、とつて？



01 ランニングパトロール活動を始めたきっかけ

民間の防犯活動
ランニングパトロール
で地域貢献なら！



ACTION

あるニュースで、私の住んでいる堺市が、「大阪で住みたくない街 No.1」と紹介されていました。そして、その要因の1つに「治安の悪さ」がありました。今、自分の住んでいる街が、「治安が悪いので住みたくない街 No.1 です」と言われたら、皆さんはどう感じますか。「あ、そうなんや」と、すごくテンションが下がると思います。私も同じように、その事実にとってもショックを受けました。私は、そんな街で子育てをしているのかと、とても残念な気持ちになりました。

そこで、自分に何かできることはないのか、治安が良くなる方法は、何かないのかと考えていたとき、泉佐野市に住む知り合いから「ランニングパトロール活動というものがあるよ」と教えていただきました。自分の趣味であるランニングをしながら、見守りをする事で治安を守る。そんなランニングパトロールを、ぜひ、広めたいと思ったのがきっかけです。

活動を始めて、間もなく3年が経とうとしています。今、この活動で、地域の子どもたちやお年寄り、女性の方たちが安心して暮らせる社会、一人一人が誇りを持って住める街、住みたいと思える街の実現を目指しています。

02 活動のビジョン実現に向けた取り組み

住みやすい街
安心して暮らせる街
ってなんだろう？



では、その住みたい街とは、どんな街ですか。皆さんが想像する「安心して暮らせる街」とは、どんな街ですか。また、そのために、一般市民である私たちができることは、何ですか。

そうしたことを考えながら、具体的な取組を、次に紹介していきます。

具体的な取組をお話しする前に、まず、地域の自治会活動の中で起こったある出来事から、得たヒントをご紹介したいと思います。

ある出来事とは、近隣住人によるバイクの騒音問題です。どこの町内でもありそうな問題ですが、私の住んでいるところでも、こうした問題が起きました。毎晩、近隣住民が帰宅するときに聞こえてくるバイクの音がうるさいと、不快に感じている住民の方がいらっしゃいました。思い当たる方も、中にはいらっしゃるのではないかと思います。こうした場合、皆さんの自治会ではどのように解決しますか。シンキングタイムです。いかがでしょうか。直接、本人に苦情を伝えて直談判しますか。

自治会や知り合いを通じて、伝えてもらいますか。注意喚起のチラシを配るなどして、伝えましょうか。それとも、警察や役所に相談しますか。

どの方法でも、不快感を抱いた騒音問題を解決することはできると思います。ただ、なんとなく皆さまも感じていると思いますが、相手は隣人やご近所さんなので、こうした方法で解決した後も、なんとなくお互いにモヤモヤとした気持ちが残り、気まづくなってしまうそうです。そうなることを懸念して、結局、伝えないまま我慢して、ストレスを溜めてしまうケースも少なくないのではないかと思います。

実はこの問題、今、皆さんが想像していただいたどの方法とも違う方法で、しかも、お互いにわだかまりもストレスもない方法で、解決することができたのです。それは、なんと私も目から鱗の解決方法だったのです。



どこの自治会や町内会でもあると思いますが、そこでも、地域の溝掃除がありました。先ほどの、騒音問題で被害を感じていた人を、仮にAさんとします。このAさんも、地域の溝掃除に参加していました。同じ町内で、知っている人も知らない人もいる中で皆で溝掃除をしていると、そこで会話が生まれます。その会話の中でAさんが、毎晩バイクの音が不快だと、ある方にお話をしました。すると、その話を聞いたBさんが「あ、それは何番地の誰々さんのご主人ですよ」とおっしゃったのです。

その後、Aさんに騒音問題について「あの問題はまだ続いていますか」と尋ねたところ、「どこの誰かが分かったら、同じ時間にバイクの音が聞こえてこないと不安になる。逆に、バイクの音が聞こえてきたら、あそこのご主人は、今日も安全に帰ってきたわと安心する」とのことでした。



このエピソードから気がついたことがあります。現状や相手の行動を変えるのではなく、相手を知り、認識が変わることで問題は解決するということです。

この騒音問題では、相手の行動を変えるために何かをしたわけではありません。相手に何かを要求したわけでもないのです。相手を知って、原因の捉え方が変わっただけで、住人の不快感を解決することができました。要は、「どこ」の「誰か」を知っただけです。ここに、地域の安心・安全のヒントがあるのではないかと、私たちは考えました。同じ地域社会で暮らす中で、「この人、見たことがある」、「話したことはないが、どこに住んでいるか知っている」。そんな顔見知りの輪を広げることで、住みやすい街になると思います。名前は知らないが、顔見知り。そんな人が周りにたくさんいると、私は子どもを育てている親としても、とても安心だと感じます。



安心・安全で住みやすい街にするために、私たちパトラン SEMBOKU の役割について、お話をしていきます。

先ほどのバイクの騒音問題から、私たちは、「人とのつながりから生まれる地域の目」を増やすことが、犯罪や迷惑行為の抑止につながるのではないかとヒントを得ました。ランニングパトロール活動で、防犯意識を持って外に出ることももちろんですが、住民同士の顔と顔をつないで知り合いを増やすことに注力した取組も行っています。



その1つに、パークランがあります。ご存知の方も、もしかしたらいらっしゃるかもしれません。パークランとは、毎週土曜日の朝に公園などに集まって、5キロを皆で一緒に歩いたり、走ったりするランニングコミュニティです。これは、ボランティアによって運営されています。参加費は無料で、誰でも参加できます。全世界に開催地があ

り、日本では34カ所、大阪では4カ所あります。南大阪で初めての開催地として、私たちの住んでいる地域でも、去年の9月に立ち上げを行いました。早く走り終えた人は、歩いている人を見て「頑張ってるね」と拍手をしたり、逆に、歩いている人は、早く走っている人を見て「すごいね」と言ったりします。車椅子でも参加できます。歩けない人や走れない人も、「ここに来れば、ボランティアとしてのあなたの役割が必ずある」。そんなコミュニティです。

皆、終わった後に手伝ってくれますし、「応援してくれてありがとう」と、ありがとうの声が飛び交います。それは、私がそうしてくださいと言ったものではありません。自然に、そうした言葉が生まれています。たまたまこの土曜日に、たまたまそこに来た知らない人同士が、そこで顔見知りとなって、助け合ったり、励まし合ったりしています。多世代が参加するので、例えば、特殊詐欺についての情報を得たときには高齢者に声をかけることもあります。参加している小学生に、子どもに対する声かけ事案などの注意喚起を促すこともあります。

03 パトランSEMBOKUのその他の取り組み

2

ゴミ拾い散歩の企画

ランニング以外の幅広い世代が参加できるように犯罪学の『割れ窓理論』から啓蒙を得て防犯活動の一環として企画
地域の公園や緑地を中心にゴミ拾いや危険物の撤去などの活動を通して街の安心・安全に関心を持ってもらおうと行っています。



また、私たちは、ゴミ拾い散歩もしています。これは、犯罪学で言う「割れ窓理論」に基づいて行っています。「割れ窓理論」は皆さまもご存知かと思いますが、簡単に言うと、景観の整った場所では犯罪が起こりにくいという理論です。走ることはできないが、歩くだけならできるという方にも協力してもらえるように、ゴミ拾いをしながら

お散歩をすることで、景観を整えてもらっています。具体的に、いつ、どのような形で行っているかについては、また後ほど紹介させていただきます。

知り合い、顔見知りを増やすという観点から、私たちはパトランSEMBOKUのキャップを作りました。それぞれが活動時に着用することで、地域で同じキャップをかぶった人同士が出会ったときに、「あ！」と気づくように、です。初めて会った人でも、趣味が同じだと親近感が湧きます。例えば、これはあまりないかもしれませんが、街で同じTシャツを着ている人がいたら、そうしたことでも親近感が湧くと思います。実際に、パトランキャップをかぶったランニング中の人とウォーキング中の人と偶然出会って、それまで全く知らない人同士だったのですが写真を一緒に撮って、それをSNSに投稿したこともあります。このように、地域の中で人が交流する機会を、私たちは作っています。

また、パークランやゴミ拾い散歩等の地域活動から、「ランニングはしんどいけれど、ウォーキングならできるよ」、「ゴミ拾いで役に立つのならやってみよう」というきっかけを生み出している

03 パトランSEMBOKUのその他の取り組み

3

**チームオリジナル
防犯キャップの配布**

『知り合い(顔見知り)を増やす』という観点からオリジナルキャップを作って、活動する時に着用することで参加者同士が簡単に会った際に仲間・共有意識を醸成しやすくする
また声を掛けられる人も安心してもらえ効果も



03 パトランSEMBOKUのその他の取り組み

**地域活動が持たらず
メリット**

散歩からなら参加できるかも、歩かなくてもいいのにゴミを拾おう！
地域貢献の満足感からパトランSEMBOKUの活動へと参加のきっかけにも

実際にパークランやゴミ拾い散歩からパトランSEMBOKUに興味を持ってください、積極的にパトランSEMBOKU活動に関わってくれる人が徐々に増加
『前もって活動をしてください』とお誘いではなく『前もって活動の一言としての存在が生まれるきっかけ』

+αなメリット

- ◎参加者の繋がりや広がり
- ◎地域環境への意識付向上
- ◎防犯知識の拡大
- ◎住人同士の声掛け促進
- ◎地域貢献への役割創出
- ◎ランパト参加者増加

と感じています。そこから共感を生み、自発性を促すことで、「防犯活動してください」と、こちらからお願いするのではなく、顔見知りが増えて犯罪や迷惑行為をしにくい心理状態になったり、お散歩だったらできるから散歩しながらゴミを拾おうという気持ちになったりする。それが、パトラン SEMBOKU の活動につながるきっかけを作り、その結果、パークランやゴミ拾い散歩からパトラン SEMBOKU に興味を持って、活動を実際にしてくれる方が、徐々に増えてきています。

そうした中で分かったことは、「防犯のためにこれをしてください」「このようなルールなので、お願いします」ではなく、自ら関わってみようと思う共感と自発性から広がって発展することで、適度にゆるくて柔軟性がある、柔軟だからこそしなやかで途絶えにくいつながりが生まれるということです。細くても長く続けられるのは、そうしたところだと思っています。



では、パトラン SEMBOKU の活動状況について、ご案内していきます。

2021年9月、私がランニングパトロールを広げたいと知人2人に相談して、3人で活動を始めて、SNSで発信を続けました。

2022年3月には42人になって、同じ年の10月には54人、今年の4月には68人になりました。仲間が増えることで、単純に、目の数と脳みその数が増えます。そのため、防犯に関わる案件が見つかりやすくなり、その案件に対して、こうしたら解決できるという声が増えて、解決に至りやすくなっています。今日現在、メンバーは71人います。

大阪府警察によるランパトチャレンジにも参加しています。2021年10月の第1回ランパトチャレンジでは、敢闘賞をいただきました。2022年4月の第2回ランパトチャレンジでは7位入賞、去年10月の第3回ランパトチャレンジでは、特別賞を受賞しました。



先ほど紹介したパークランも継続中です。今日は土曜日ですので、今朝、第43回を開催しました。足元の悪い雨天の中ですが、15名の参加者がありました。だいたい、20人から30人ぐらい来られるのですが、今日は天候の影響もあって、15名ほどのご参加でした。

04 バトランSEMBOKUの活動状況

ランバトから始まり、さらに地域・人々とのつながりを

1 **パークラン定期開催**

堺市環境課と協賛の協力を得て市社の健康推進に向けた3回シリーズイベントの1回で堺市南区にある所山公園でイベントディレクターとして実用開催



04 バトランSEMBOKUの活動状況

ランバトから始まり、さらに地域・人々とのつながりを

2 **ゴミ拾い散歩定期実施**

子供やお年寄りでも参加しやすい地域で何分位に立ち寄りと思う人たちが気軽に気軽参加できるイベントとして東北エリアで定期的に実施



先ほど取組の中でご案内したゴミ拾い散歩も、月に一度、継続しています。私の最寄り駅に商業施設があって、その施設の前はいつもゴミであふれかえっています。市も週に2日ほど、清掃に入ってくれているようですが、それで追いつくようなレベルではなく、本当にたくさんのゴミであふれています。私たちが月に一度、散歩の「3」にちなんで、第3日曜日にゴミ拾い散歩に参加しています。

その他、地域で行われる社会活動やイベントに積極的に参加して、共感の輪を広げたり、ランニングパトロールとの相互協力につなげたりしています。

写真は、ビーチクリーンという、海に流れ着いたマイクロプラスチックを拾うイベントです。大阪堺市のゴミは全てここに流れ着くと言っても過言ではないぐらいに、問題になっている堺浜で行われたイベントです。美観を整えて、犯罪抑止にもつながるといった観点から、参加しました。

もう1枚の写真は、「100人の一歩フェスティバル」というイベントに参加したときのものです。地域住民が街を良くする、暮らしを良くするというコンセプトで行われたイベントです。

このように、人が知り合う機会を作り、さらに地域や人々のつながりを生むきっかけとなるような活動を意識しています。

そんな私たちのことを知ってもらうために行っている、広報活動を紹介していきます。

04 バトランSEMBOKUの活動状況

ランバトから始まり、さらに地域・人々とのつながりを

3 **地元の社会活動へ参加**

地元堺市界隈で開催される社会活動やイベントへ参加しバトランSEMBOKUのどじょうと共感の輪を広げたり、ランニングパトロールとの相互協力にも繋げる



広報活動と啓発への取り組み **05**

ランニングパトロール活動のすそ野を広げるための広報活動

PR



05 広報活動と啓発への取り組み

メディア紹介実績①

堺市広報課より見守り活動について取材月間広報誌「広報さかい」にてバトランSEMBOKUの取り組みについて紹介

23年2月号

「さかい」



まず、堺市民に全戸配布される、市政だよりに掲載されました。安心・安全なまちづくりをしている団体として、堺市からのインタビューを受けて、堺市広報 2022 年 2 月号に掲載されました。

こちら市からの取材の依頼を受けたものです。街の魅力を紹介するウェブサイトインタビュー記事が掲載されました。



地域で最大の読者がある地域情報誌にも、2回、掲載されました。地元でのニュースやローカルな話題がたくさん掲載されている、月2回発行の『泉北コミュニティ』です。2022年1月と2022年7月の、計2回、掲載されました。たまたま7月号の記事を見た地域の自治会の防犯支部長さんがわざわざ会いに来てくれて、その後、自治会の防犯会議で取り上げていただきました。

直近では先月、NHKの夕方のニュース番組『ほっと関西』で取り上げていただきました。6月8日の放送を見た方はいらっしゃいますか。「見たよ」と声を出かけてくださる方も多くありますが、NHKの『ほっと関西』で、子どもの登下校の見守りについて取り上げられ、その中で、ランニングパトロールが紹介されました。私も小学生の子どもを持つ親として、登下校の見守りも積極的に行っています。



このように、さまざまな媒体で、さまざまな場面で、私たちの活動について取り上げていただいています。

次に、私たちの活動における地域貢献の事例、実績を紹介したいと思います。



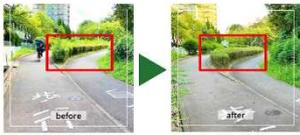
これは、横断歩道の白線の劣化です。子育て世代のママであるメンバーが報告してくれました。子どもの往来も多い横断歩道で、2022年4月に白線が薄くなっているとの報告を受けて、区役所

を通じて最寄りの警察署に連絡して、8月に改善していただきました。

06 活動を通して地域への貢献

事例②

▼22年9月
堺市南区原山公園内を通るカーブした緑道脇に生える植栽が茂り見通し不良による対面通行者の危険性を70代メンバーが発見し公園管理者へ報告



▼22年10月
公園管理責任者にて剪定対応

06 活動を通して地域への貢献

事例③

▼23年1月
堺市南区新檜尾公園内で犬の散歩中のメンバーが公園内で倒れている高齢男性を発見、本人の高齢確認と状況を119番通報



救急車の到着時に救急隊員に状況説明の後、対応を引き継ぐ

こちらは、植栽によって見通しが悪い遊歩道です。いつもこの道を利用するメンバーから報告いただいたものです。堺市南区原山台公園の、カーブのある歩道で植栽が伸びて、見通しが悪くなっていて危険でした。2022年9月に報告を受けて、公園管理者によって、翌月の10月に剪定していただきました。

また、今年1月5日の夕方に新檜尾公園内で、犬の散歩中のメンバーが、倒れている高齢者男性を発見、119番通報し、救急車到着を待って救急隊に引き継いだことがありました。このように、地域貢献の例もたくさんあります。

ただ、その中で感じている課題もあります。

THEME

現状の課題と今後の活動目標

防犯活動の広がりとさらにその先へ



07 & GOAL

07 現状の課題と今後の活動目標

さらなる認知度向上ときっかけ作りがカギ

声掛けが逆に不安を抱かせるという課題に直面

突然この声がかからない人に声を掛けられると不安や警戒感を抱かれてしまう
それを懸念して活動中の私たちが声を掛けづらくなる

もっとパトラン SEMBOKU の存在やランニングバトル イベントのことを知ってもらえたら
活動中に見かけた走っている人や子どもたちに声をかけやすくなる



私たちの課題は、認知度の低さです。課題解決のために、地域のイベントに出店したり、自作のチラシを配布したりもしています。しかし、まだまだ地域内での認知度は低いです。もっとパトラン SEMBOKU の存在や、活動を知ってもらえたら、パトロール中に困っている人や子どもたちに声をかけやすくなるだろうと思っています。どこの誰かが分からないことが原因で、不安を招くという話を先ほどしましたが、私たちも知らない人に声をかけられる不安を懸念して、気軽に声をかけられないことがあります。

そのため、今後の目標は、認知度をもっと上げることです。チラシの配布なども行いながら、引き続き、地域活動との相互参加、行政や教育機関との連携の強化、企業のCR活動とのコラボなどでもできればと考えています。SNSの発信も続けて、地域内でランニングしている人や定年退職後の高齢者の方にも積極的に声をかけて、協力依頼をして

07 現状の課題と今後の活動目標

さらなる認知度向上ときっかけ作りがカギ

解決に向けたアプローチ案

- ◎自作チラシの配布
- ◎他の地域活動との相互参加
- ◎行政・教育機関との連携強化
- ◎企業のCR活動とのコラボ企画
- ◎SNSでの情報発信強化
- ◎ランナー/退職者への参加協力依頼



いこうと思います。

私たちが目指すのは、人と人のつながりによって、社会の一員として、他人のことを自分のこととして考えられる健康な心を持った人の多い地域を作ることです。

パトラン SEMBOKU そのものが犯罪抑止となることも大事ですが、地域や誰かのために行動を起こす側の人が増えれば、街は絶対に良くなると思っ

ています。例えば、犯罪に手を染める人が病人だと考えたら、警察は医療機関です。すでに病気になった人を治療するお医者さんとして、病人を減らしてくれます。

では、私たちの役割は何か。日々の生活習慣を良くして、病気になりにくい生活を提供して、健康な人を一人でも多く増やす環境づくりをすることだと考えています。どちらも病人を減らして健康の人を増やすという目的は同じですが、私たち一般市民には、治療を施すことはできません。ですが、医療機関のお世話になる人を減らすための、健康的な生活をサポートすることはできます。病人を減らすという役割としては、効率が悪いかもしれませんが。しかし、効率の悪いことを、一般市民が協力して行うことで、得られるものがあります。逆に言えば、一般市民にはそれしかできないのだから、一生懸命やりましょうということです。

07 現状の課題と今後の活動目標

パトラン SEMBOKU が目指す活動目標

地域に根差した社会活動を通して
人と人のつながりの輪を広げ

共に暮らす仲間意識
地域社会の一員として
他人事から自分事へ



Fin 私たちのゴール

ランニングパトロールからその先に実現させたいこと

- 地域や周りの誰かのために、何かをしたいと思っている人の行動を促すきっかけ作り
- 地域や誰かのために何か行動を起こす後の人を増やす
- 高齢者のやりがい・生きがいの再発見の場へ
地域貢献の一環を担う活躍の場を創出し、イキ元気で心身ともに健康な高齢者を増やす



「こんな風にはなりたくないな」ではなく「あんな風になりたいな」と思える高齢者の姿が増える

私たち働き世代も年齢を重ねることに對して「ポジティブ」に捉えられる

親世代がポジティブに過ごす姿を見て育つ子供たちは「未来は明るいものだ」と信じていることができる

職業柄、ランニングパトロール中に、高齢者をよく目にします。特に、男性に多いように思いますが、定年退職後に役割や肩書きをなくし、やりがいや生きがいがなく、毎日過ごしている方が多いようです。それが認知症にもつながると、医学的にも言われています。そんな人たちに役割ができ、歩いたり、走ったりすることで、身体的な健康

だけでなく、精神的にも高齢者がいきいきできればと思っています。

私たちが住んでいる堺市南区は、郊外ベッドタウンとして、高齢化が進んで、大変な問題となりつつあります。いきいき元気で、心身ともに健康で、財政を圧迫しない高齢者が増えれば、市の問題解決にもつながるのではないかと考えています。「こんなふうには、なりたくないな」ではなくて、「あんなふうになりたいな」と思える高齢者の姿を見たら、今、そこに向かって私たちが世代も、年を取ることに非常に関心を持って捉えることができます。私たち世代がポジティブに生活していれば、その姿を見て育つ子どもたちは、未来は明るいものだと思うでしょう。

ランニングパトロール活動がもたらすのは、単に犯罪のない安心・安全なまちづくりだけでなく、全世代の皆が輝き、明るい未来を作ることだ

Fin 私たちのゴール

「安心・安全で愛着が持てる住みよい街」に描く未来のカタチ

ランニングパトロール活動がもたらすものは単に犯罪の不安が無い安心・安全な街づくりだけでなく全世代のみんなが輝き明るい未来を作ることだと信じてこれからもランニングパトロールを広めていきたい



と信じています。

最後に。職業柄、接するどの高齢者も口を揃えて言うことがあります。若い頃はお金や愛が欲しかったそうです。しかし、失って初めて気づくものがある。それは何か。「健康」と「人とのつながり」なのだそうです。私たちパトラン SEMBOKU の活動では、そのどちらも失いません。そんな素晴らしいこの活動を、私たちはこれからも継続していこうと思います。ご清聴ありがとうございました。



姫路市立高浜小学校PTA(兵庫県)

皆さん、こんにちは。兵庫県姫路市から参りました犬賀善治でございます。今日は姫路市立高浜小学校PTA 顧問の立場で、事例発表をさせていただきます。



姫路と言われても、あまりピンと来ない方がいらっしゃるかもしれません。そこで今日は、資料の表紙に姫路城を載せました。ちょうど平成の大修理が終わった後で、本丸の漆喰が真っ白な状態ですが、今は、もう適度に汚れてございますので、違和感なく見ていただけるかと思います。

今日は、皆さんにこの資料をお配りするのだと思って、ここに QR コードを載せました。姫路の観光大使である女優の のんさんの、1分間ほどの

動画です。それを QR コードにしておいたのですが、これは皆さんに配布しないとのことで、全然、活かされずに残念です。隣は『しろまるひめ』という、ご当地キャラクターです。これは夏バージョンです。

姫路城が世界遺産に登録されて、今年でちょうど 30 年です。そのため、今年はいろいろなイベントが、お城周辺で開催されています。先日は平成中村座さんが三の丸広場に大きなテントを建てて、そこで演目をされました。私も妻と一緒に見に行ったのですが、舞台演出で、中村勘三郎さんと遊女役の七之助さんが手を取り合ったそのとき、後ろのカーテンがパッと開いて、そこへお城がドーンと出てきて、私も涙が出そうぐらい感動したところでございます。

もう1つは、ご当地、さくらサーカスさん。和歌山県が創設の地だと聞いておりますが、さくらサーカスさんも2カ月ぐらいにわたって、サーカス公演されました。

それでは、活動地域からご紹介します。姫路市立高浜小学校の所在地、高浜地区でございます。姫路城から3キロほど南の地区でございます。6913世帯、人口が1万6671人、面積が7.49平方

1. 活動地域

姫路市立高浜小学校の所在地である高浜地区
(6,913世帯、人口16,671人、面積7.49km²)

2. 団体の概要

高浜小学校PTAは、児童数904人、682世帯の保護者で構成されています。



キロメートル。広いのか狭いのかよく分かりませんが、もともと田んぼだったところが造成されて、家がたくさん建ったということです。

高浜小学校は、4年ほど前までは姫路一のマンモス校でございました。現在、高浜小学校PTAは児童数が904人、682世帯の保護者で構成されています。そんな地区でございます。



3. 活動内容
(1) 学校防犯システム「ツイタもん」の導入 2019年6月
学校防犯システム「ツイタもん」とは

ICタグを持った児童が学校に「ツイタもん」を「校門通過時刻」と防犯カメラの「映像」にて記録する無料のサービスです。
※導入費、メンテナンス費無料
※通過情報(時刻・映像)は学校(職員室等)での確認が可能
※保護者への通知サービスもご利用いただけます。(有料)
※ICタグを保持される方に対して、学校よりメール配信が可能

姫路市立高浜小学校PTA

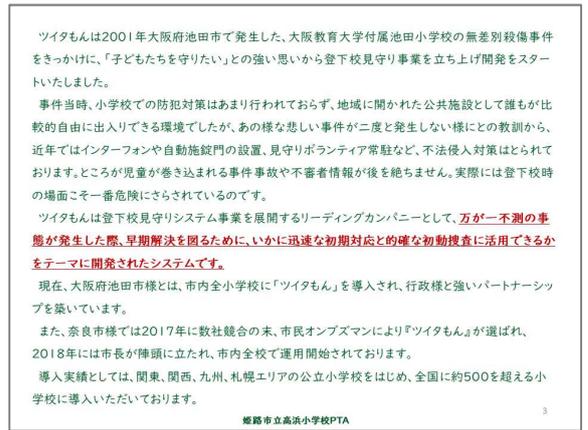
そんな地区に、2019年1月3日、4日と2日続けて、首のない鳩が、路上にありました。そして1月7日、3学期の始業式の日には、お隣の小学校で、内臓のない猫の死体が校門に置かれていたという事件がありました。

こういう事件は、だいたい大きな事件に発展します。そこで教頭に、学校防犯システム「ツイタもん」の業者さんと会いたいの、事務局にアポを取ってくれとお願いをしました。以前から、こ

のチラシが小学校向けに配られていたので、ご存知の方もいらっしゃるかと思います。ランドセルに付けられるICタグです。これを持った児童が学校に着くと、校門通過時刻とともに、防犯カメラに映像を記録します。希望される方には、有料にはなりますが、メールで「着いたよ」と届くサービスもあります。このシステムは無料です。ICタグを持つのも無料です。我が高浜小学校は、大阪にたくさんのビルをお持ちのオーナーさんからの、寄付のような形で導入させていただきました。姫路市で入れたところではございませんので、障害になるのは教育委員会の学校施設課でございますが、「そちらの前さばきはこちらでします、最短でいつ入れられますか」と聞くと、「6月です」と言われました。姫路市で一番に入りたいので、すぐに動いてくださいとお願いしました。

時間の都合もありますので、「ツイタもん」のシステムの内容はお話ししませんが、気になる方はインターネットで調べていただければと思います。このシステムは、2001年、池田市で発生した池田小学校の無差別殺傷事件をきっかけに作られたものです。池田市や奈良市は、全部の小学校が導入しています。私も、姫路市でこれを入れて、あちらこちらでこのお話をしています。姫路市の学校はもう何の障壁もないので、すぐに動いてもらってよいとのことで、今、十数校に入ったと聞いております。

ただ、それだけで子どもたちの安心・安全が守られるわけではございません。次に手を打ったのは、「エアートーク」というシステムを入れることでもございました。子どもたちが学校から帰るときに、「今から子どもたちが帰ります」という放送をしているところもあると思います。しかし、私たちの校区には、そうしたものはございませんでした。校区の中には14町あります。その全部



ツイタもんは2001年大阪府池田市で発生した、大阪教育大学付属池田小学校の無差別殺傷事件をきっかけに、「子どもたちを守りたい」との強い思いから登下校見守り事業を立ち上げ開発をスタートいたしました。

事件当時、小学校での防犯対策はあまり行われておらず、地域に開かれた公共施設として誰もが比較的自由に出入りできる環境でしたが、あの様な悲しい事件が二度と発生しない様にとの教訓から、近年ではインターフォンや自動施錠門の設置、見守りボランティア常駐など、不法侵入対策はとられております。ところが児童が巻き込まれる事件事故や不審者情報が後を絶ちません。実際には登下校時の場面こそ一番危険にさらされているのです。

ツイタもんは登下校見守りシステム事業を展開するリーディングカンパニーとして、**万が一不測の事態が発生した際、早期解決を図るために、いかに迅速な初期対応の確かな初動捜査に活用できるかをテーマに開発されたシステムです。**

現在、大阪府池田市様とは、市内全小学校に「ツイタもん」を導入され、行政様と強いパートナーシップを築いています。

また、奈良市様では2017年に数社競合の末、市民オンブズマンにより「ツイタもん」が選ばれ、2018年には市長が障頭に立たれ、市内全校で運用開始されております。

導入実績としては、関東、関西、九州、札幌エリアの公立小学校をはじめ、全国に約500を超える小学校に導入いただいております。

姫路市立高浜小学校PTA

の放送システムを使いたいと連合自治会長に相談をしました。そのときに「こんなものがあるよ」と言われ、ぜひ、それを入れようということになり、動いたわけでございます。

入れるときにはいろいろありましたが、各団体でお金を出し合い、県や市から助成金をいただいて、このシステムを入れました。本当に良いシステムです。上の写真は連合自治会の定例会です。今から、こういう工事をしますとお話ししているところです。

「子どもたちが帰ります」という声は、当時いらっしゃった音楽の先生に吹き込んでいただきました。その声で、「今から低学年が帰ります」「今から高学年が帰ります」という案内を入れていただきました。

この放送をしても、それで防犯が完璧というわけではございません。今までしてきた2つの対策はハード面です。ソフト面の整備もしなければなりません。

ここに、私が緞帳の前でお話をしている写真があります。これは、9月の地域の敬老会でした。そこで、「今からこういうシステムの設置に向けて動いています。そこで、皆さんにお願いしたいことがあります」とお話ししました。それは、ここにも書いてございますが、「出るだけ防犯、3時、4時」。最近は見なくなりましたが、当時はこのコマーシャルが流れているときでした。皆さんの団体もされていましたが、つまりは「ながら防犯」です。「ぜひ、子どもたちが学校から帰る時間に、外へ出て見守ってください、声をかけてあげてください」とお願いをいたしました。暑い中でしたが、おじいちゃん、おばあちゃんたちは共感してくれて、大きな拍手をいただいたというところでございます。

不思議な現象でございます。この放送が流れます。子どもたちが門を出たという通知が行きます。すると、ぞろぞろと、子どもたちの下校の道に出てきてくださいます。ある人は犬を連れて、ある人は小さい子どもを抱っこして。成果が出てきていると感じるところでございます。

活動内容の3つ目です。

私は、実はPTA会長を長らくしておりました。子どもは3人おります。高3、高1、中1。女、女、男です。上の子どもが小学校に入ったときにクラス役員になって、次の年から本部役員になって、そのあとずっと11年ぐらい活動していました。その中で、2年間PTA会長をしました。次女が5年生か6年生ぐらいのときは終わっていて、コロナ真っ只中のときは、顧問職でした。コロナで地域がガタガタになったわけです。連合自治会長から「犬賀さん、もう一度戻って、やってくれ」と言われて、長男の5年生か6年生のときに、もう一度PTA会長をさせていただきました。そのため、「こうしたら、このように動くな」というものは私の中にあつたもので、お金の使い方もそうですが、このようにやってきました。これまで見ていただいたのが、最初の2年間の活動でございます。これから見ていただく3番目と4番目は、その後の活動です。



昨年、2022年5月に、「HAPPY YELLOW PROJECT 200」を立ち上げました。これは、皆さんも目にしたことがあると思います。子ども110番の家の旗です。この設置状況を確認したところ、76旗しかありませんでした。教頭に名簿を見せてもらおうと、「お亡くなりになりました」、「施設に入られました」。おじいちゃん、おばあちゃん主体でお願いをしていたので、これはあかんといい、「夏休みまでに200旗設置する」という活動を立ち上げたわけでございます。はずみを付けるために、「HAPPY YELLOW PROJECT 200」という名で立ち上げて、私の次に、今PTA会長している同級生を、責任者にしました。

これは、個人宅にお願いしても、なかなかうまくいきません。そのため、事業所をメインにしてロードサイドのお店やコンビニもそうです。そうしたところが協力してくれるのです。

不思議な現象です。最初は「夏休みまでに200旗設置するなんて、できひんわ」と言うのですが、そんなことはありません。2カ月もあれば十分設置できます。暑い中、15人ぐらいの本部役員だけで活動しましたが、お願いすると事業所の方は、ほぼ皆さん、快く受け入れてくださいました。また後ほどのパネルディスカッションで、その辺りお話ができるのかなと思いますので、そこは割愛いたします。

目標通り、夏休みまでに200旗、設置できました。スライドにあるのは依頼文です。

200旗もあると、不思議と皆の目につくのです。そうすると他の事業所さんも、「うちも付けたい」という動きになってきます。やはり、風の動きは大事だと思います。

3. 活動内容

(3) "HAPPY YELLOW PROJECT 200"の立上げ 2022年5月



【子ども110番の家】の設置状況を確認したところ76旗しか設置されていないことが判明し、夏休みまでに200旗の設置を決めました。活動に弾みをつけるために「HAPPY YELLOW PROJECT 200」を立ち上げ、次期PTA会長を責任者に付けた。まずは設置をお願いしたい事業所をピックアップし、PTA本部役員が6月下旬から夏休みまでの期間に事業所を回り、設置を依頼し、目標通りの旗数を期間内に設置完了しました。

福井県立高浜小学校PTA

3. 活動内容

(4) "たかはま安心安全みまもりマップ"の制作 2023年3月



2010年に作成した「高浜地区安心安全マップ」を更新することを決め、【子ども110番の家】200旗の設置が完了したのち、旗やバス通りの設置場所、児童の通学路、危険箇所を「たかはま安心安全みまもりマップ」に盛り込み、全校児童1,000名と校区の全5,000戸に配布しました。

「ツイタモン」は毎年2月の入学説明会において説明し、希望者には入学時にICタグを配布しています。

「エリアトーク」は月曜日から金曜日まで低学年児童の下校前と高学年児童の下校前に見守りを呼び掛ける放送を流しています。また夏休み等の長期休暇期間中は、帰宅を呼び掛ける放送を夕刻に流しています。

「HAPPY YELLOW PROJECT 200」は【子ども110番の家】の旗の更新手続きを毎年2月に行っています。

福井県立高浜小学校PTA

続きまして、「たかはま安心安全みまもりマップ」の作成です。これは今年の3月に作成しました。実は2010年に、このマップは作成されていたのですが、長らく更新されていませんでした。これが、校長室のついたてにずっとあって、連合自治会長と、これを更新したいと話していました。いよいよ私もPTA会長はこれが最後なので、今年に更新するしかない、動き出したのです。

ここに、小さい、黄色の星印がたくさん付いています。これは、子ども110番の家の旗を設置したところ。青いところが通学路、赤いところは危険箇所です。こうしたマークをマップに入れております。これはB2版で作成しました。このマップの更新にあたり、「ここに76の星しかなかったら、そんなもん配られへんで」という話になって、先に200旗設置したわけでございます。こうしてマップを作成し、児童1000枚分、そして校区の全5000戸に配布しました。お金は、連合自治会やPTAなどで出し合いました。そして、「広報ひめじ」に全部折り込んで、自治会の各班の手を借りて、全戸に配布をしました。これ

を 5000 戸に配布した理由は、次のプロジェクトが関わってまいります。「なんか、こんな配られてきたで。また、なんかするんやろな」というところのアクションを起こしたところでございます。

先ほどの、「ツイタもん」の話に戻ります。これは毎年 2 月の、新入生の入学説明会において説明します。そして、希望者には入学式のときに IC タグを配布します。

「エリアトーク」は月曜日から金曜日まで、低学年児童の下校前と高学年児童の下校前に見守りを呼びかける放送を流しています。また、夏休み等の長期休暇期間中は、帰宅を呼びかける放送を、夕刻に流しています。

「HAPPY YELLOW PROJECT 200」については、子ども 110 番の家の旗の更新手続きを、毎年 2 月に行っています。

ただ、放送していると、スピーカーの下にいる方からは、うるさいと言われます。そのようなときは、低学年の子どもたちに「いつもありがとう」という手紙や絵を書かせ、その家へ持って行かせます。そうすれば、誰も何も言いません。そうしたことをしております。

4. 課題

保護者のPTA加入問題(任意団体であるが故)があるために、活動が保護者の大きな負担にならないように留意する必要があります。また役員任期の満了による短期間の責任者の交代で、活動が鈍化する恐れがあります。

姫路市立高浜小学校PTA

さて、そんなことをしながらも、やはり課題があるわけでございます。保護者の PTA の加入問題です。任意団体であるがゆえ、管理問題があるために、活動が保護者の大きな負担にならないように留意する必要があります。また、役員任期の満了による短期間の責任者の交代で、活動が鈍化する恐れがあります。

私は、先ほども申し上げたように、本部役員を 11 年務めました。今、PTA 会長をしている同級生

は、今、子どもが 6 年生ですが、その子が 1 年生のときに、「お前は俺の次に PTA 会長をせなあかんから、本部に入って、俺のすること一緒に見といてな」などと言っておいたので、その辺の引き継ぎはできています。連合自治会なども長いこと、うちの会長も 7、8 年はされているので、1 年や 2 年でコロコロと変わっていかないことが特徴です。この 4 月、姫路市の連合 PTA なども、「これは任意団体だから、会費が伴うことを言え、言い方は任せる」と言われました。多くの学校は、やはり、脱退があったようです。イエスカノーかで問うと、だいたい 4 割ぐらいは脱退されるわけですが、しかし、我が高浜小学校は 1 件も、1 人も、脱落がなかった。これは、いろいろな活動をしているので、そのあたりを見ていただいていたところなんです。

去年、「僕らの SDGs」という活動をしました。それは廃品を集めるということ。ビンであったり、缶であったり。今年は、子どもたちの体操服の交換をしました。立ち上げたものは形を変えて、ずっと存続していることになります。

もう 1 つ、注意をして私がやっていることがあります。先ほどのパトラン SEMBOKU さんも上手にされていましたが、私も何かしたときは、必ずこうしたものを作っています。今日は皆さんにもお配りしていますが、『タカハマタイムズ』の創刊号です。私が作ったので、ちょっとお恥ず

かしい出来なのですが、これは音楽会のときまでにその設備を入れて、皆さんに「こういうものが入りました」と知ってもらうために、そして「これをするにあたって、誰がどう動いたか」を知ってもらうために作りました。それ以来、何か活動したら、必ず報告をしております。先日は全校生徒向けに、飾磨警察署にお願いして交通安全教室をしたのですが、そんなときも神戸新聞さんに、これは公共性のあるものだから取材に来てと言いました。今年はケーブルテレビさんにも来てもらい、取材をしてもらうといった活動もしています。

5. 課題の解決に向けた取扱方策

児童の安心安全を見守る活動は、PTA組織を中心に行ってききましたが、共働き世帯の増加や、任意団体であるPTAへの加入問題を受け、別の組織が活動を行うことが望ましいと判断しました。高浜地区では2017年より“高浜会議”という名称で、既存組織がそれぞれの問題を共有し、解決するための場を年数回開催し、解決に向けて取り組んでいます。

しかしながら“高浜会議”の中に“安心安全部会”を設置していましたが、うまく運用ができていませんでした。

そこで2023年4月から、部会長を設置し、少年補導委員、高浜まちづくり防犯グループ推進員、地域ふれあいの会、交通安全協会高浜支部、小学校PTA、中学校PTAを束ねる組織へと部会を発展させることにしました。

これまではハード面の整備に取り組んできましたが、今年度からは地域の皆様に活動していただくソフト面の整備と運用に努めています。

姫路市立高浜小学校PTA

8

さて、最後になりました。課題の解決に向けた取扱方策でございます。

児童の安心・安全を見守る活動は、PTA組織を中心に行ってききました。具体的には、各町の子ども会の会員が行っています。PTAは全員入っていますが、子ども会に入っていない非会員がいて、その方たちが活動に参加しないため、不公平感がございます。共働き世帯の増加や、任意団体であるPTAへの加入問題などもあり、これは別の組織

が活動を行うことが望ましいと判断しました。高浜地区では、2017年より高浜会議という名称で、既存の組織が持つそれぞれの問題を共有して解決するための場を年に数回開催して、解決に取り組んでいます。しかしながら、この高浜会議の中に安心安全部会を作っていたのですが、うまく運用されていません。部会長もいない組織でしたから。

そこで、この4月から部会長を設置して、少年補導委員、高浜まちづくり防犯グループ推進員、地域ふれあいの会、交通安全協会高浜支部、小学校PTA、中学校PTAを束ねる組織へと、部会を発展させることにしました。そして、その部会長を私がすることになりました。「あんた、PTA会長を離れてヒマやろう」ということで、そういうことになりました。

今、いろいろな団体名を挙げましたが、僕も、どこが何をしているのか、全く分かりません。たぶん、皆、そうなのです。これではあかんということで、テコ入れをしようと思って活動しています。

最後の締めでございます。これまでは、ハード面の整備に取り組んできましたが、今年度からは地域の皆さまに活動していただくソフト面の整備と運用に努めていきます。

これはうちの役職者です。皆で決意表明をしたというところでございます。

以上で、高浜小学校PTAからの報告とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



和歌山市名草地区地域安全推進員会（和歌山県）

皆さん、こんにちは。和歌山市名草地区地域安全推進員会です。当会の会長を務めています松井道夫と、会計を担当しております川西万貴子です。どうぞよろしくお願いたします。

ただいまから、和歌山市名草地区地域安全推進員会の活動内容などについて、発表させていただきます。



活動地域

和歌山市の南部に位置
主要完成道路が南北に縦貫

地区の北部には、

- ★西国2番札所 紀三井寺（早咲きの桜で有名）
- ★和歌山マリーナシティ
- ★浜の宮海水浴場
- ★JR紀三井寺駅（地区の玄関口）
- ★和歌山県立医科大学
和歌山県立医科大学附属病院
- ★紀三井寺競技場公園（紀三井寺野球場）

まず、私たちが活動する和歌山市名草地区の概要について簡単にご説明いたします。

和歌山市は、42の地区に分かれております。私たちが活動する名草地区は、和歌山市の南部に位置し、旧熊野街道に沿った三葛、紀三井寺、紀三井寺団地、内原、内原団地と、海岸に沿った布引、毛見、旭橋の8地区からなり、東西約3.2km、南北約3kmの範囲となっています。一部が海に面していることから砂地が広がり、特産物の布引大根や生姜は、全国に出荷されるほどの産地となっています。

地区内の人口は約1万8000人、世帯数は約8000戸で、和歌山市42地区の中でも面積、人口ともに大きい地区でございます。

地区内には、桜の早咲きで有名な西国巡礼二番札所「紀三井寺」、風光明媚な和歌浦に浮かぶ人工島「和歌山マリーナシティ」、マリンスポーツが盛んな「浜の宮海水浴場」等の観光資源があります。また、JR紀勢線の紀三井寺駅、和歌山県立医科大学附属病院、紀三井寺競技場公園、紀三井寺野球場などの施設もあり、国道42号線、国体道路といった幹線道路が地区の中を南北に縦貫しています。

写真の左上が、桜の早咲きで有名な西国二番札



所の紀三井寺です。

その隣が、野球王国和歌山の聖地である紀三井寺球場と、陸上競技場・球技場とがある紀三井寺運動公園です。

左下は、風光明媚な和歌浦の海に浮かぶ人工島、和歌山マリーナシティです。島の中には、ヨーロッパの町並みやアトラクションが楽しめるテーマパーク「ポルトヨーロッパ」があります。最近では映画やCM等のロケ地になることも多く、家族で一日中楽しんでいただける施設となっています。

右下の写真は、浜の宮海水浴場です。遠方に見えているのが、今申し上げた和歌山マリーナシティです。

地区内の教育機関や公共施設	
保育園	1 か所
幼稚園	1 か所
小学校	2 校
中学校	1 校
大 学	1 校

地区内の教育機関です。名草地区には保育園が1か所、幼稚園が1か所、小学校が2校、中学校が1校、大学が1校あります。観光客だけでなく通勤通学に伴う人の出入りも多く、それだけに事件・事故の多い地区でもあります。

そのような中、少しでも地域住民が安全・安心に生活できるようにと、名草地区地域安全推進員会では、いろいろな活動に取り組んでいます。

団体の概要及び構成	
【8地区から構成】	
・紀三井寺団地	・布引地区
・毛見地区	・紀三井寺地区
・内原地区	・三葛地区
・内原団地	・旭橋地区

団体の概要及び構成	
【構成員】	60名
【男 性】	42名
【女 性】	18名
【平均年齢】	75歳

団体の概要、及び構成です。平成8年に、和歌山市名草地区防犯員会から、現在の名草地区地域安全推進員会に改名されました。

当会は、紀三井寺団地、毛見、内原、内原団地、布引、紀三井寺、三葛、旭橋の8地区で構成されています。現在の構成員は男性が42名、女性が18名の合計60名であり、平均年齢は75歳と、年々高齢化しています。

また、活動費といたしまして、連合自治会から年間6万円、和歌山市から助成金年間2万円をいただいています。

活動の内容

- ★ JR紀三井寺駅クリーン作戦
- ★ 登下校時の見守り活動
- ★ 緑道（遊歩道）の夜間パトロール
- ★ 祭礼時・紀三井寺（千日詣）の際のパトロール
- ★ 浜の宮海水浴場（夏期）

7



紀三井寺駅で
チラシやノベルティを配布する会員

8

活動内容についてご説明します。

平成 18 年、JR 紀三井寺駅に西口が新設され、同駅を利用する乗降客が飛躍的に増大したことに伴い、同駅周辺における自転車・オートバイの盗難や街頭犯罪が大幅に増加しました。平成 18 年上半期における自転車盗難は、県下の多発場所のワースト 5 に入りました。自転車の歩道への駐輪・放置等も問題となり、早急な対策が求められました。

こうした状況を改善するため、当会では、和歌山西警察署や少年補導員の方と協力し、駐輪場の整理や自転車のツーロック運動等、防犯活動・広報活動を重点的に行ってきました。

平成 18 年 9 月以降、毎月第 2 月曜日を「JR 紀三井寺駅クリーン作戦の日」と定め、同活動を継続し、利用客のマナーアップや街頭犯罪抑止活動に力を入れております。クリーン作戦では、駅前でその時々ので啓発チラシやノベルティグッズの配布を行います。また駐輪場では、煩雑に置かれた自転車などの整理を行いながら、積極的に「おはようございます」、「いってらっしゃい」の声かけを行っています。始めた頃は無言で受け取っていた人たちも、今では「おはようございます」、「ご苦労様です」と挨拶を返してくれるようになりました。今後も JR クリーン作戦を継続し、長期の放置自転車を撤去するなど、環境整備に努めていく次第です。



紀三井寺駅東口に設置された表示板

9



紀三井寺駅西口に設置された表示板

10

先にも述べたように、JR 紀三井寺駅には、東口と西口に駐輪場があります。どちらの入り口にも、ツーロックを呼び掛けるメッセージと、毎月の自転車盗難の発生件数などが記載した表示板が設置され、駐輪場利用者に注意を促しています。

駅前の整備や啓発活動等により、自転車の盗難が少しでも減少すればと思っています。

こちらは、JR 紀三井寺駅西口の駐輪場です。こちらの入り口にも、注意喚起の看板が設置されており、被害の発生件数などが表示されています。

次に、登下校時の見守り活動についてお話しします。先に述べたように幹線道路が地区内を縦貫し、事件・事故等も多いことから、各地区単位でも地域安全推進員が中心になり、自治会等の協力を得て、小学校の登下校時の見守りを実施しております。こうして、地域安全推進員が一丸となって、地域住民が安心して生活ができる地区づくりに努めています。

続いて、緑道の夜間パトロールについてお話しします。地区内には、路面電車跡地を整備した歩行者・自転車専用道路である「紀三井寺緑道」があります。こちらは全長約2.3kmで、地区住民の散策や健康増進のジョギングコースとなっているほか、学生の通学路にもなっています。

しかし、この緑道での不審者が比較的多いことから、毎月第2・第4火曜日の午後5時から、2班に分かれて徒歩によるパトロールを、警察の協力を得て行っています。また、緑道内には樹木が生い茂り、街灯の光が届かず、暗く見通しの悪いところもありました。痴漢の出没も報告されたため、樹木の剪定を県にお願いし、見通しをよくするなどハード面の対策も行っています。

その他、夏休み期間中は、マリーナシティに隣接する浜の宮海水浴場の夜間パトロールを、7月に1回、8月に1回、警察の協力を得て午後9時から約1時間実施しています。

夜間パトロールは、ほかにも8月9日の紀三井寺の千日詣でに合わせて、他の団体と合同でのパトロールを実施しています。



活動の内容

- ★ JR紀三井寺駅東口の花壇の手入れ
- ★ 秋の全国地域安全運動
- ★ 年末年始の特別警戒
- ★ 青パトによる広報活動
- ★ ひったくり、自転車盗難 空き巣被害防止広報の実施

また、和歌山西警察署からの「犯罪のないまちづくりには、人の心を癒やすことも大事ではないか」というご提案で、和歌山市役所の協力も得て、紀三井寺駅駐輪場の周りにプランターで花壇をつくり、会員が交代で花の植え替えや水やりをするなど、環境美化活動を行っています。

最初の頃は、近くに散水栓が無く、花への水やりが大変でした。そこで、当会を含めた名草地

区の各種団体に協力をお願いし、防災用も兼ねて井戸を掘っていただきました。おかげで、今では駅前での散水活動が、ずいぶん楽になりました。花を植えても抜かれてしまわないかと心配しておりましたが、荒らされることはなく、駅の利用者や近所の人から、駅の周りがきれいになったと喜ばれています。

このような活動を通して地区住民の危機意識を高め、「自分たちの地区は自分たちで守る」という、強い意識を持ってもらえればと思っております。

また、活動する中で多くの方々に「こんにちは」「こんばんは」「ご苦労さん」といった声をいただくようになりました。犯罪や事件から住民を守ることも大切ですが、このようなコミュニケーションや思いやりから、犯罪を作らない社会にしていけたらと思っております。



先ほどお話しした JR 紀三井寺駅周辺の駐輪場の自転車整理について、詳しくお話しします。

駅の西口には、市の無料駐輪場がありますが、スペースが狭く、駐輪場に入りきらない自転車があふれて点字ブロックを覆い、危険な状態となっていました。そこで駐輪場の増設について、市と JR に対して要望書を提出し、再三お願いしていたところ、駐輪場が増設されました。自転車のはみ出し等もなくなり、景観も良くなりました。

また、駅の東口では、JR の空き地に無秩序に置かれた自転車が見苦しく、この状態を何とかしようと関係機関と協議した結果、利用者が止めやすいようにラインを引くことになりました。そこで、JR さんの許可を得た上で、会員総出で、空き地に自転車置き場と通路を区別するラインを引きました。すると、自転車・バイク等がライン内に置かれるようになり、整理されるようになりました。写真は、駐輪場で自転車の鍵かけを確認し、整理を行っているところです。その隣は駐輪場の、昔と今の写真です。見比べてもらうと、ラインが引かれ、きれいに整備された状況が分かると思います。

次に、紀三井寺緑道の夜間パトロールを実施している様子です。夜間の写真ですので、若干見えづらいかもしれませんが、緑色の蛍光色の防犯ベストを着用し、複数の会員でパトロールを実施しています。





次に、青パトです。

私達は独自で広報用のアナウンス文を作成し、流しています。自分たちで考えた文章を、会員が読み上げて録音したものを流しています。

ここで、実際に青パトでパトロール中に流しているアナウンスの内容を、少しの間、お聞きください。

【青パト アナウンス】

こちらは名草地区地域安全安心パトロール隊です。振り込め詐欺に注意してください。警察官や役所の職員が、電話で現金やクレジットカードを要求したり、自宅に取りに行くことは絶対にありません。知らない人に、お金やカードを渡さないよう、十分注意してください。不審な電話は警察に通報してください。

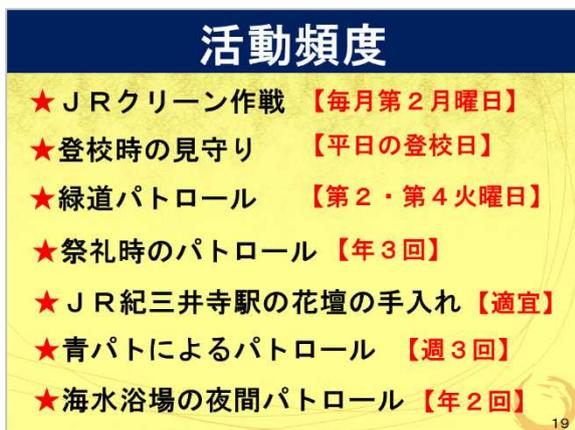
こちらは名草地区地域安全安心パトロール隊です。ひったくり被害に注意しましょう。バッグなどは建物側に持ちましょう。自転車のカゴには防犯ネットを取り付けましょう。後ろから、オートバイの音が近づいてきたら、振り返って確認しましょう。

こちらは名草地区地域安全安心パトロール隊です。空き巣被害に注意しましょう。短い時間の外出でも、必ず鍵をかけましょう。怪しい行動をしている人を見かけたら、110番通報をしましょう。

ありがとうございました。

私達会員が皆で、気持ちを込めて手作りしたものです。

また、参考までに、青パトの管理費等は、すべて連合自治会にお願いしています。



活動の頻度です。

JRクリーン作戦が、毎月第2月曜日。

登下校時の見守りは、平日の登校日に実施。

紀三井寺緑道パトロールは、第2・第4火曜日の月2回。

祭礼時のパトロールは年3回。

JR紀三井寺駅花壇手入れは、植え替えは四季ごと、水やりは適宜。

青パトによるパトロールは週3回。

浜の宮海水浴場の夜間パトロールについては

不審者情報が入ると、学校は内容次第で保護者に連絡、集団下校等の対策をとります。私達も、パトロール実施等の対応をとります。こうした情報発信は、その経過・結果を報告していただくことが大切でありますし、私達も、情報はしっかりと取り扱ってまいります。私達の活動は、子ども達の安全・安心のためだけでなく、地域におけるあらゆる犯罪の大きな抑止力になっていると自負しております。

現在の日本社会では、超高齢化と人口減少を要因とする負の連鎖が始まっています。私達の地域も例外でなく、先行きへの不安が募る中、かつてのような人間関係が失われております。危うさが目立つ日常生活において、このような活動が、少しでも治安維持に役立てられるのであれば幸いです。

今後、私たちが目指すものは、犯罪・争いのない、平穏できれいなまちづくりです。「割れ窓理論」にあるように、きれいにすることで地域を事件・事故から守り、安全で安心な美しいまちづくりに頑張ってまいりたいと思います。

最後になりましたが、ご列席の皆さま方の益々のご活躍とご健勝を祈念して、名草地区地域安全推進委員会の活動発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

